

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

吳市立昭和中学校区 校番 16 学校名 吳市立昭和中学校

<p>a 学校教育目標</p> <p>自ら伸びる みんなで伸びる</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>&lt;ミッション&gt; 夢を実現するために、主体的に学ぶ意欲を持ち、地域社会に貢献する人材の育成</p> <p>&lt;ビジョン&gt; ①生徒の「生きる力」が育つ学校 ②生徒が安心して主体的に学び合い、学力が身につく学校 ③心を潤すことが自然に行き交い、社会性が高まる学校 ④地域・保護者から信頼される学校</p>
--------------------------------------	------------------------------	---

<p>c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点</p>	<p>学力向上については、「吳の学校教育」の柱となる「考える授業」づくりと、本中学校区で進める「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの関連を回り、ICTの効果的な活用方法についても研究と実践を重ねてきたが、今年度も、更に基礎学力の定着や家庭学習の習慣化のためにも個別最適な学びの充実に取り組む必要がある。</p> <p>生徒指導については、「チーム『笑輪』」をキーワードに、安全・安心な学校づくりを組織的に推進することに取り組んできたが、自分や周りにいる人を大切にすること、将来の「夢」や「目標」を持っていない生徒や、学校に居場所を見出せない生徒もいる。これらの現状を踏まえ、一昨年度から取り組む「校内SSR指導員派遣授業」の充実をはじめ、より丁寧な生徒理解に努める中で一人一人の生徒に寄り添い、自尊感情の育成や将来への展望を持たせていく必要がある。さらに、4年目となる新たな公立高等学校入学者選抜制度に対する成果と課題を踏まえ、キャリア教育の充実に取り組む中で「15歳の生徒に身に付けさせたい力」を見通しを持って計画的に育成していくことが求められる。</p> <p>また、「働き方改革」の推進に係る吳市の指針を踏まえ、積極的な教職員間のコミュニケーションをより一層活性化させ、一人一人の教職員の願いや意見が尊重され、明るく活気ある「チーム『笑輪』」の学校組織体制を整備するとともに、学校の業務全般を視野に見据えたスクラップ・ビルドや、タブレットの活用を通じた組織的、効率的な業務遂行や業務改善を通して、教職員一人一人の実感を伴う「働きやすく働きがいのある職場づくり」を引き続き推進していく。</p>
-------------------------------------	--

<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」 「主体性・協働する力」</p>
--------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから①・②・③年目)				自己評価							
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成率	k 評価	i 達成値	j 達成率	k 評価
★★★ 学力の向上を図る。		【貫】<授業づくり> 継続的な授業改善に取り組む「考える授業づくり」を推進する。	全教職員による「聴いて 考えて つなげる授業」モデルの定着を通して、繋がりのある「考える授業づくり」の授業改善に取り組む。	生徒アンケート「授業中友だちの考えや意見をよく聴いています」の肯定的評価の割合 生徒アンケート「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」の肯定的評価の割合	95%	95%	100%	A	91%	96%	B
		基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。	学力調査等の結果を踏まえた基礎・基本のドリル学習やQubenaをしっかりと活用することで、学力の定着を図る。	定期試験における「30%未満」の生徒の割合 Qubenaをしっかりと活用して、取り組んだ。	10%以下 85%	11%	87%	B	19%	58%	D
★★★ 中学生としての自覚と責任を持たせる。		「授業規則やりきる三則」を徹底し、中学生としての規範意識の向上を図る。	規律ある学校生活の確立に向けて、登校から下校までの時間を意識させ行動化を図る。	生徒アンケート「時間を守っています」の肯定的評価の割合	90%	98%	109%	A	99%	110%	A
			中学生としての自覚を持たせ、服装や髪型等の身だしなみを整えさせる。	生徒アンケート「服装や髪型などの学校のルールを守っています」の肯定的評価の割合	90%	98%	109%	A	99%	110%	A
			身の回りの整理・整頓に努めさせ、落ち着いた学習環境づくりの統一化を図る。	生徒アンケート「机の中やロッカーを整えています」の肯定的評価の割合	90%	88%	96%	B	87%	97%	B
★ 豊かな感性や社会性を育む。		【貫】<居場所づくり> 生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。	生徒相互の人間関係や居場所づくりを進める学級経営や教育相談活動を推進する。	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しいと思う」生徒の割合 生徒アンケート「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合	90%	94%	104%	A	94%	104%	A
			生徒の自己有用感や社会性を育む生徒会活動やボランティア活動、小中交流の取組を推進する。	生徒アンケート「自分の将来に夢や目標を持っている」生徒の割合 生徒アンケート「将来社会に貢献できる人間になりたいです」の肯定的評価の割合	90%	79%	88%	B	80%	89%	B
			学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。		95%	96%	101%	A	95%	100%	A
業務改善	働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。	生徒と向き合う時間を確保する。	「部活動休養日」を活用した学年・分掌会等の会議や職員研修の効率化、及び職場環境の整備を図る。	教職員アンケート「生徒と向き合える時間が確保されている」の肯定的評価の割合	80%	100%	125%	A	100%	125%	A
		「共有」「協働」による組織的な業務改善や職場の活性化に取り組む。	コミュニケーションを図る中で風通しの良い職場風土を醸成し、相互の支援体制や協力体制を構築する。	教職員アンケート「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」教職員の割合	90%	88%	98%	B	80%	88%	B

{k: 評価} A: 100 ≦ (目標達成) B: 80 ≦ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≦ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間 (最終) )

昭和中学校区 校番16 学校名 昭和中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上を図る	【貫】(授業づくり) 継続的な授業改善に取り組み、「考える授業づくり」を推進する。  基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。	○上半期の達成度と比べ、「授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています」の肯定的評価の割合が増加し、「授業中友だちの考えや意見をよく聴いています」の肯定的割合が減少している。考える授業づくりの中で、自分の考えを伝える場面に授業の重点が設定されていたことが考えられる。  ○定期試験における「30%未満」の生徒の割合が18.7%で、上半期の達成度と比べ、減少している。基礎・基本の学習に関しては、Qubena学習を軸として取り組んでいるが、学習状況に個別の差が出てきている状況がある。	○授業の中での考えを共有する場面を各教科で意図的に設定していく。その際に、伝える場面と聞き取る場面の設定を明確にすることで、生徒の学習への目的意識や定着がより図れると考える。  ○基礎学力定着に向けて学習支援アプリ『Qubena』を活用することで、個々の課題に向き合えるようにしていく。学年末の振り返りの際にも活用場面を意図的に設定し、担任とも連携しながら学習の差を埋められるよう取り組んでいく。
**	中学生としての自覚と責任を持たせる。	「授業規則やりきる三則」を徹底し、中学生としての規範意識の向上を図る。	○教員からの指導や生徒同士の声かけにより目標値である90%を越えている。一方で、寒さが増してくると遅刻や欠席が増えてくるため、継続的な指導が必要であると考えられる。  ○服装、身だしなみについて、生徒自身の自己評価は目標値の90%以上と肯定的な数値が表れていた。しかし、制服の着くずしなど十分でないところもある。自分たちはできていると思っていることも、大人から見れば不十分などところがある。  ○学年が上がると生徒自ら学習環境に目が向けられるようになってきているが、ゴミが落ちていることやロッカーが整理できていない状況を気にとめない生徒や整理・整頓ができない生徒もいる。	○引き続き学校組織全体で、基本的な生活習慣を身に付けられるよう指導を行う。時間に遅れてしまう生徒には、保護者と連携を取りながら個別の指導も徹底して行うことや、委員会活動を活用し生徒同士が声かけできる環境をつくることで、時間を守る意識を高めていきたい。  ○服装、身だしなみが整わない一部生徒に対して、家庭と連携した指導や協力依頼などの取組を行うとともに、日々の授業や学年集会等の機会を通して、集団指導を充実させて生徒の意識や態度の改善を図る。  ○委員会活動や班活動で核になる生徒を巻き込んで、整理整頓できるようにすると同時に、学年担任も帰りの会につく等して、整理整頓を徹底させたい。
*	豊かな感性や社会性を育む。	【貫】生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。  学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	○3つの項目の内、生徒アンケート「自分にはよいところがあります」と答える生徒は上半期85%・下半期88%と他に比べて低い状況がある。「自分にはよいところがある」という質問に対して肯定的に答える生徒が少ないのは自分に自信がなかったり、周囲と自分を比べ自分の欠点にばかり目を向けていたりすることが考えられる。  ○生徒アンケート「自分の将来に夢や目標を持っています」の肯定的評価の割合は、上半期79%・下半期80%と低い状況がある。1、2年生は進路についての知識が少なかったり、自分の将来をイメージすることができていないことが考えられる。	○学級の中で互いのよさを探す活動や教員が積極的に生徒の長所を発見し声かけをしていく。また、学級や行事などで生徒の活躍の場を増やし、それに対して生徒の成長を今以上に認めていく。  ○学級や学校行事等で、自分達でルールを決めたり、運営をしたりするような生徒主体となる活動を推進していく。また、1年生や2年生に対しての早い段階での進路学習や自分のよさや生き方について考えるために「キャリア・ログ」を活用することなどで、自分の将来をイメージすることができるようにする。
業務改善	働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。	生徒と向き合う時間を確保する	○職員会議及び学年会、分掌会を定期的開催することで、先を見据えた業務の計画を立て、実行することにつながっており、生徒と向き合う時間も確保できていることにつながっている。  ○2学期は、文化活動発表会や生徒会選挙等の行事が多くあり、それぞれの担当や学年で連携して業務を進めることがある程度できていたが、一部の教職員に業務が偏る面もあった。	○今後も生徒と向き合う時間を確保していくために、計画性をもった業務を遂行していく必要がある。また学校全体をチームとして業務を進めていくことにより、生徒と向き合う時間の確保を継続して行う。  ○今年度の教職員の行事ごとの振り返りを有効に活かすために、先を見据えた業務スケジュールと企画する。業務を行う上で、「報告・連絡・相談・確認」を含むコミュニケーションをしっかりと図っていく中で、風通しの良い職場風土を醸成していく。